

小林市長 結城市には、73年の歴史を持つ「北関東中学校野球大会」や、20年続く「シルクカップロードレース大会」があります。今後、友好都市10周年や15周年といった記念の年に、シルクカップの延長として両市をコースにしたマラソン大会などができると面白そうですね。結城市のスポーツ施設も、多くの小山市民の皆さんにご利用いただいていますし、スポーツの「両市対抗戦」を催してみるのも良いかもしれません。

浅野市長 なるほど。栃木県は自転車のプロチームがあり、毎年国際的なレースも開催されるなど「サイクリング」の熱い地域です。両市をまたいだマラソンコースが作れば、サイクリングコースにも活用できるかもしれませんね。

小林市長 レンタサイクルを両市で共通利用できるようにして、先ほど話題にあがった「城跡巡りコース」を自転車で周遊できると良いかもしれません。結城市の南部地域には、水野忠邦公をはじめとする「水野家の墓」や、今後整備予定の「結城廃寺跡」などがありますが、徒歩でのアクセスが難しいので、自転車がとても有効になります。

あとは、音楽の分野でも交流できると思いますね。結城市民文化センターアクロスが、改修工事の



小山市との市境に位置する「小山運動公園」は、アクセスの良さから結城市民の利用も多い。

ため令和5年9月から令和6年11月まで全面休館する予定で、友好都市を結んで10周年となる2024（令和6）年にリニューアルオープンしますので、これから落としの際には大々的に音楽イベントを行いたいと考えているところです。

浅野市長 小山市には、40年以上の歴史を持つ「小山市交響吹奏楽団」がありますので、お声がかかれば結城市での演奏会が実現できるかもしれません。また、白鷗大学ハンドベル部など精力的に活動している団体もありますので、市民レベルでの交流も期待したいですね。

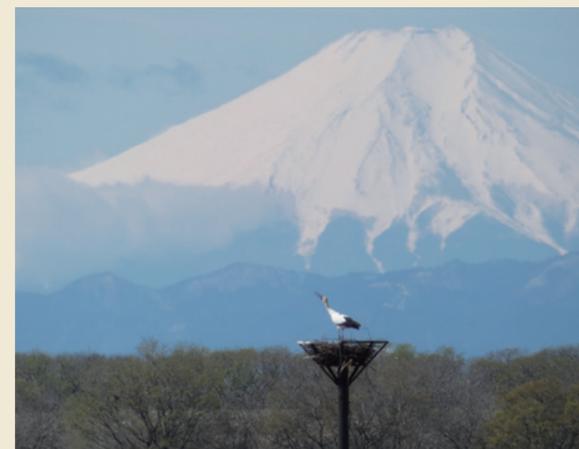
コウノトリは豊かな自然の証

浅野市長 平成24年に「ラムサール条約湿地」に登録された渡良瀬遊水地では、3年連続でコウノトリが繁殖しました。これは、遊水地だけでなく周辺の田園環境も含めて良好な生息環境が維持されていることがとても大きくて、定住自立圏4市町の自然環境の変化は、遊水地のコウノトリに大きな影響を与えています。いつまでもコウノトリと共生できるよう、地域一体で豊かな自然を残していきたいですね。

小林市長 昨年、小山市の協力を得てコウノトリの企画展を結城市で開催したところ、非常に好評でした。コウノトリにとっては、渡良瀬遊水地から結城までひとつ飛びでしょうから、周辺自治体が協力してコウノトリの生息環境を守っていききたいですね。

また、昨年は「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」の構成員として、ほかの16市町とともに環境省から「トキとの共生を目指す里地」に選定されました。将来、本州でトキが放鳥されたら、ぜひトキにも定着してほしいですね。

浅野市長 渡良瀬遊水地周辺だけでなく、関東地方のどこでも普通にコウノトリやトキが見られるような環境を、取り戻していきたいですね。



2020年、渡良瀬遊水地に定住していたコウノトリ「ひかる（オス）」と「歌（メス）」が結婚。野外個体としては東日本初となるヒナも誕生した。普段は遊水地内の人工巣塔にすることが多いが、周辺の田畑や民家など人里近くもよく飛び回っている。



切磋琢磨しつつ協力する「小山三兄弟」のような関係を築きたいですね。

友好都市盟約10周年、そしてその先へ

浅野市長 2024年の友好都市盟約10周年に向けて、こうして対談の機会を設けられたことは、とても有意義だったと思います。10周年の際は、両市の友好がさらに深まるような記念行事にしたいですね。

小林市長 例えば両市出身で各界で活躍している著名人などをお呼びするのもいいですね。両市で協力して、市民の皆さんに喜んでもらえるような面白い企画を一緒に考えていきましょう。お互いに切磋琢磨しつつ、いざという時には協力できるような、まさに「小山三兄弟」のような関係を築いていきたいと思いますので、引き続き、よろしく願いいたします。



令和5年新春対談総括

- ①歴史や結城紬など「共有資源」をフル活用し、両市をめぐる「周遊観光」を促進。
- ②スポーツ大会や音楽イベントなど、両市に根付く「文化」を生かした交流を実施。
- ③周辺自治体が協力して豊かな自然を守り、「コウノトリ」の生息環境を保護。
- ④友好都市10周年となる2024年に、絆がさらに深まる記念行事を。



皆さまにとって素晴らしい年となりますように。



結城の豊かな自然もコウノトリに大きく影響しているんです。